

# 4月オレンジ第2園だより

掲載日 令和6年4月1日

オレンジ第2保育園 長嶺 亜実

社会福祉法人オレンジ会の保育目標

(私たちが大切にしている保育)

## ①健康で心豊かな子・・・目標実現に向かったの方針

子どもの大切な命を預かり安全・安心な居心地の良さを心がけ、子どもの人権を尊重し、心身の成長を支援し、人との関わりを大切にしながら、生活のリズムを整え、伸び伸びと育てる。

信頼関係を土台として、保護者・子ども・職員が常に連携し合って子どもの成長を共に育て・共に育ち合える関係を構築する

## ②自分から行動できる子・・・目標実現に向かったの方針

指示・命令・禁止の大人主導ではなく、常に子ども自ら考えて行動できるように、善悪の判断や考えが誘発できるような声掛けを基本とし、子ども自ら育つ力を引き出し主体的に活動ができるようにする。

そのためには、環境を整え遊びが選択でき、好奇心が持てる・遊具・教材を用意提供し、ヒントを提案しながら子どもの想像や工夫を広げていくようにする

## ③自己を表現して遊べる子・・・目標実現に向かったの方針

経験や体験を通して未知の世界を獲得していく子どもたちの豊かな感性を育み、音楽リズム・絵本や物語・絵画制作・児童文化財・運動や自然との触れあいを通して興味・関心を広げ、言葉で伝え合い・表現を喜び人に認められることによって自己肯定感や自信に繋げ、人との繋がりを通して、社会性を身につけていく



## 入園・進級おめでとうございます

さわやかな春の季節、園に新しい風が吹いてきました。新しくお友達を迎え入れて、子どもたちの声が響き園全体がにぎやかに令和6年度の保育がスタートいたしました。

今年度より園長を務めさせて頂く事になりました。長嶺 亜実と申します。

理事長より意志を引き継ぎ子どもを真ん中に職員、保護者の皆さまと連携を密にし、子育ての思いを互いに支え合い、語り合っ子ども成長を願い手を取り合いながら、オレンジ会の理念「共に育て・共に育ち合い」オレンジ第2保育園の運営に精進していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。

初めて経験する集団生活で、子どもたちも保護者の皆さま期待と不安でいっぱいだと思いますが職員一同ひとりひとりの子どもの思いを大切に受け止め、保育園は楽しいところ、お友達や先生と一緒に沢山の「やりたい・やってみたい」と体験や冒険を見つけ、さらに、自分の生活に必要な身の回りの事も「自分でできるようになる」そんな乳児期から幼児期への成長の過程を、丁寧に見守り優しく援助し、園生活が楽しく安心して過ごす場所になるように保育を進めて参ります。



令和6年度 職員紹介 (皆で頑張ります)

園長 長嶺 主任 柳澤

0歳児 ほし組 (6名)  
★吉原 ★砂川  
(オレンジこども園より異動)



1歳児 にじ組 (14名)  
大嶺 (7月産休) 玉城  
市成 (育休復帰 6月より)  
安村



2歳児 そら組 (18名)  
池宮城 平尾  
浦崎 (オレンジこども園より異動)

3歳児 うみ組 (10名)  
桃原



フリー職員  
看護師 仲宗根 砂川  
宇根 宮城 中山  
保育士 (事務) 花城 (金城こども園より異動)  
調理員 伊良皆 赤嶺  
嶺岡



## 4月の行事予定



### 1日(月) 新入園児初めましての会

各クラス親子で遊び、1日の流れを説明  
～新入園児 慣れ保育開始～

### 15日(月) 生活の日

自分の持ち物名前の確認、爪はのびてないか  
頭は、体の傷などは、保育士と一緒に点検

### 18日(月) 発育測定

毎月・保育士と子ども一人一人が自分だけの時間を  
共有しベビーマッサージを行っています。

19日(金) 避難訓練・・・避難経路確認、非常ベル  
を聞き、先生のお話を聞いて避難する。

20日(土) なかよし親子遠足・第3土/午後家庭保育  
奥武山・弓道館建物後ろ広場にて/9時集合  
職員紹介・各クラスでのコミュニケーション

10時半～11時解散 後自由散策 お弁当は自由

### 22日 こいのぼり掲揚

24日(水) お弁当会

29日(月) 昭和の日公休日



## 子どもたちのケガについて

集団に於ける、子どものケガは、防げる場合と、防げない場合があります。  
命に関わる大きな事故・それは絶対にあってはなりません。

万一に備え施設賠償保険にも加入、避難訓練・危険箇所点検を厳重に行い、保育の中では保健衛生管理、睡眠時チェック・アレルギー食の対応や誤嚥食材の管理は厳重に行っております。

しかし、どうしても防げない、「かみつき・ひっかき」 散歩時の歩行未熟や体のバランスをくずしたときの「転倒・擦り傷」・不意に起こる脱臼・園外活動時の虫刺されなど、保育の中でインシデント・アクシデントとして上がってきます。その時、保育者は「ケガをさせてしまった」「ケガをさせてしまいすみません」という自分を責める気持ちになり、保護者への謝罪のため気持ちが落ち込んでしまいます。

「ケガをさせないで下さい」と怒鳴りつける保護者も中にはいます。  
子どもは、ケガや出血・痛みを経験してはじめて自分の身の守り方を学習していきます。  
多少のケガは、お互いが子どもたちの成長として捉え、「こんなことしたらケガするね・危ないね」を伝え合える関係として、保護者の皆様にはご理解いただけたらと願っています。

子どもを育てるときに不安なこと・心配なこと沢山あります。その時こそお互いがわかり合い、励まし合って、気持ちを楽に持ち支え合える関係になりたいと思っています。